

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
 発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
 電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

多くの人にとって関心事であり重要な課題になっています。本会の本年度の活動方針には、「本会の綱領が詠う『生き甲斐づくりに貢献する』とともに、会員一人ひとりの心の拠りどころとなる第二の居場所づくりの運営と発展に尽力する」、「本部と支部が一体となって、健康で文化的な諸活動の推進を図り、生き生きとした存在感ある退職校長会を目指す」と示されています。



東京都退職校長会 副会長 宇津木順一

生き生きとした存在感ある退職校長会

内容とともに組織運営体制などを含めて、今、学校が大きな転換点にあることなど、学校の現状や課題について活発な意見交換が行われました。これらの話を伺いながら、本会会員が、それぞれの時代環境の中で、教育者として培ってきた高い見識と確固とした信念、その実践や経験について、もっと後輩の皆さんに伝え、応援したいという思いを強くしました。

先日、書店に入ると、書棚の最前列に「定年後」をテーマにした図書が積み上げられていました。今、ベストセラーになっているということですが、人生八十年、九十年から、やがて人生百年の時代とも言われています。定年後の生活は、余生ではなく、充実した人生にとって、職業生活に匹敵するほど重要になっており、定年後をいかに過ごすかということが、

ます。本会の活動方針は、まさに今日の課題に迫るものであります。八月末、五団体（園長・校長会）代表との教育懇談会がありました。各代表の皆さんからは教育要領や学習指導要領の改訂を受けて、その実施に向けて鋭意努力していること、教育現場の働き方改革や業務の適正化などの新たな課題への取組が急務になっていること、そして教育

現職の校長先生方との交流の場を広げ、新しい学校づくりを積極的に応援することは、本会の目指している教育支援とともに、私たちの「生き甲斐づくりに貢献する」活動にもつながるように思います。本年度の活動方針の実現に向けて、本部、支部一体となって積極的に取り組んでいきたいと思っています。

主な記事

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| P1 巻頭言 副会長挨拶 | P8 高齢者叙勲受章会員論考 |
| P2 五団体との教育懇談会 | P9 支部だより |
| P3 トピックス | P12 新入会員の声 |
| P4 第1回「人材バンク」登録者対象研修会 | P14 前号の会報誌を読んで |
| P6 関プロ東京大会について | P15 湯島の動静 |
| P7 平成29年度「第2回会員研修会」のご案内 | P16 物故者、応募コーナー編集後記 |

五団体との教育懇談会

日時 平成二十九年八月二十六日(土)
会場 退公連鈴木共同ビル・5階(会議室)

今年度の「五団体との教育懇談会」は、去る8月26日(土)午後1時30分から本会事務局会議室で開催された。

はじめに記念撮影、続いて、会長の挨拶、自己紹介の後、5団体(都合により東京都立特別支援校長会代表欠席)の代表から当面する校種別の教育課題のプレゼンテーションが行われた。休憩を挟んで、本会の主たる事業説明を担当副会長、部長から説明があり、質疑応答、情報交換が行われた。閉会后に和やかな懇親会が実施され散会した。ここに、各団体の代表から説明された概要を記す。

◇ 公立幼稚園・こども園

東京都国公立幼稚園・こども園
園長会 会長 桶田ゆかり

○ 現状と課題

・園数：三園減の一七一園(内公設・公営のこども園は、二八園。)

・園児数：一三、六三〇名。園児数減少の中、三歳児のみ増加傾向。特別な支援を要する幼児は一五〇名。九・三%増加している。

・教諭：六五六名。このうち三〇歳以下が四六・二%を占め、若手と管理職候補の育成が重要課題となっていること。

○ 園長会の取組

・「新幼稚園教育要領」の理解。三〇年実施に向け、「幼児教育の基本は、遊びを通しての学び」「小学校教育との接続の強化」の充実と発信。

・課題研究「幼小の接続を推進する園長の役割」のまとめ。
・障害児、虐待等、人権課題の解決に向けた園長研修会。

・第十四回子育て研修会(都P

TA共催)の開催等。

◇ 公立小学校

東京都公立小学校長会
副会長 針谷玲子

○ 新学習指導要領全面実施に向けた取組。

・新学習指導要領の周知・徹底と教育課程編成のための参考資料の配布と活用を図ること。
・移行措置への対応(時数の確保、総合の扱い、外国語指導の研修会の実施等)

○ 調査活動

・再編した各委員会の調査内容の充実と改善を図ること。

○ 研究活動等

・第六十一回東京都公立学校小学校長会研究発表会の実施(二/九 新宿区立西戸山小学校にて)

・都小周年行事(平成三十三年七十五周年記念式典・平成三十五年研究大会)の検討等。
・全連小周年行事(平成三十五年七十五周年記念行事・研究大会)の検討等。

○ 要望項目(都教委・都議会等)

・学校現場の働き方改革と業務の適正化の推進他

◇ 公立中学校

東京都中学校長会
会長 岩永章

○ 中学校長会の活動概要
・校長としての職能向上に努め、中学校教育の振興を目的とした活動。

・教育上の課題を明確化し、教育水準向上のための教育条件整備の推進。

・国・都教育庁の教育施策に関する情報提供と周知徹底。関連団体との連携の密着化。

・環境整備(進路対策、修学旅行対策)、実態調査、研修会を通し、都立高校や私学協会との調整の円滑化。

○ 今年度の活動重点項目と重点課題

・中学校教育七十年記念・第六十八回全日本中学校長会東京大会の運営。

- ・教育管理職不足への対応（再任用校長が全都で一四〇名に及ぶ実態の改善）
- ・働き方改革への対応（都教育庁各部との連携、調査への協力）
- ・緊急の課題への対応（都立高校入学者選抜受験資格の緩和への対応等）
- ・平成三〇年度末で中体連事務局員の末配置への対応等。

◇ 公立高等学校

東京都公立高等学校校長協会

会長 上村 肇

- 都立高校では、入試の際の採点の誤りをなくす最大限の注力に努めていること。

私学との関係で、一次・前期選抜の採点期間の余裕の無さが課題であり、苦勞していること。

- 都立高校には、課程、学科や学年制・単位制などが異なる多様な学校が設置されていること。

- 一部の学校の入学選抜では、



国語、数学、英語（除リスニング）の問題を自校で作成し実施していること。

- 八月二十四日の東京都教育委員会定例会で、来年度から

の進学指導重点校、特別推進校、推進校を決定。（進学実績などの数値を踏まえての指定。）等。

各校種の代表からは、貴重な、かつ綿密な資料をもとに、本年度の活動方針、具体的内容、喫緊の課題等が克明に報告された。これらの意見を拝聴し、改めて、一層の連携と理解をもち合っていく必要性を感じた。

現在の都退職校長会の最大の課題は会員数の減少である。

この意味でも、五団体との懇談会を通し、各校種の人々との連携を深め、横断的、縦断的に入会促進をはじめとする切実な課題を解決したいと願った。

一層の強力な関係を構築していく思いを強くした意義ある会であった。

（文責 伊地敦子）



トピックス

テンジンサマ

太田蜀山人と調布日記そして菅原道真

小林 耕一

「テンジンサマ」何と親しみやすい響きでしょう。「何事のおわしますかは知らねども、かたじけなさに涙こぼるる」（西行の作との伝）という神々しさよりも私たちの庭のような母校のような環境として、大木も神楽殿も天神市も私たちの暮らしの中に深く入り込んでいように思えます。参道の店を左右に見ながら境内に入りお参りを済ませ、御神楽の笛や太鼓の音を耳にしながらしを回るのが、参詣する人々はまた来月もと心に決め、土産を持って家路につくのです。いつの頃から続いているのでしょうか。

時代によってその変遷はあったと思われませんが、一つの記録として太田蜀山人（南畝）の「調布日記」があります。幕府の役人として多摩川の堤防の点検・補修のために往復したようですが、その公務の合間に書き綴ったものです。その中に布多天神社に参詣したことが見られます。「…今日天気もよければ、昼餉くいてやどりを出て、布多天神社にまうでぬ。けふは、文化六年（一八〇九年）二月二十五日なれば男女ともむらがれ行て、社のうちは賑いし。小間物うるみせ、箆籠うるものまで所せく、杜のかたへにはふるき衣服などとりちらしてひさぐさま、市立つ日のごとし。拝殿に巫女なども自由別当は永法寺なり。…」こんな雰囲気がつつと続いたのでしょう。（後略）

（調布支部だより67号より）

平成二十九年 度

第一回 「人材バンク」登録者対象研修会

Ⅱ 都受託事業「人材バンク」運営特別委員会・報告Ⅱ

本年度、都教育庁から委託された「人材バンク」事業の受託内容のうち「登録者育成に関する業務」として「人材バンク登録者対象研修会」がある。年二回の開催予定で、その第一回が七月二十二日(土)に開催された。研修会を開催するにあたり、人材バンク運営特別委員会が実施計画を練り、担当所管の都教育庁人事部と綿密な打ち合わせを重ねて実施を迎えた。

1. 研修会の趣旨

「人材バンク」は、「大学生、教育退職者、スポーツ指導者など様々な方の協力を得て、学習活動や部活動などの学校教育活動をサポートし、学校支援の補助とすることを目的とする事業」(都教育庁人事制作成の資料より)で、広く一般都民から登録者を募っている。そこで、本研修会は登録者が学校でス

ムーズにボランティア活動が行えるように、学校教育に関して必要な知識や児童・生徒と接する際の心得等を情報提供する機会として開催されるものである。

2. 研修会内容等について

- ・日時 七月二十二日(土)
- ・会場 都教職員研修センター
地下二階B221研修室他
- ・担当者 午前九時集合(顔合わせと役割の確認・準備)
- ・受講者(登録者) 四十五名



全景写真

3. 講義Ⅰについて

- ・全体会形式で行われ、主催者の都教育庁人事部挨拶並びに人材バンク事業の概要説明。
- 続いて、資料「教育庁人材バンクガイドブック」活動に当たつての注意事項」に基づき説明があつた。

4. 講義Ⅱについて

- ・委託された都退職校長会の会員がそれぞれ校種別講師となり、以下の内容を講義形式で行つた。

- ① 学校教育とボランティア活動(心得も含めて)
 - ② 発達段階に応じた児童・生徒との接し方
- ：小・中・高・特別支援の四校種別に

- ※講義Ⅱにおける配慮事項
- ・都退職校長会作成の「研修ノート」(講義内容のポイントが記載されたもの)を受講

- 者(登録者)に受付時に配布した。受講者は講義内容等を聞き、それをノートで確認しながら受講できるようにした。
- ・講義に当たっては、パワーポイントでキーワードを示しながら、可能な限り具体的な事例を取り上げて説明した。

5. グループ別演習について

- ・研修会の後半は、受講者の参加意識を高めるため、グループ別演習タイムを設定した。
- ・学習①グループ(12名)、学習②グループ(11名)、



分科会①



分科会②

- 部活動①グループ（11名）、部活動②グループ（11名）の四グループに分け、ワークシヨップ形式で、気軽に且つ率直な意見交換ができるような雰囲気作りに努めた。
- ・各グループには、運営特別委員会のメンバー等が分担して、グループリーダーとコーディネーターを務めた。前者が総合司会・記録、後者が司会進行と助言者を担うことにした。
- ・進行の主な手順は、
- ① 受講者の自己紹介



分科会③

- ② 講義を聞いた感想・意見等
 - ③ コーディネーターの体験談等を交えた助言
 - ④ まとめ。研修報告の記入とアンケート用紙への回答とした。
- ※所要時間は五十分に設定。受講者が均等に発言できるように進行役は留意すること。②の時間の充実に努めること。
- ※会場設営は受講者も含めてグループ別に全員で行うこと。開閉会時は挨拶を厳守すること。

6. 受講者のアンケートから

- ・アンケート結果をみると、本研修会に参加して非常に役に立った、役に立ったの回答が79%であった。

- ・回答の理由としては、「四校種の子どもの接し方を伺い、不安が軽減された」「ボランティアの際、がんばりたいと思った」「授業と部活の本質をつかめた」「今後の指導の参考となり、活かすことができる」「児童生徒の発達段階を詳しく知ることができた」「現状の教育の方向性がある程度つかめた」「校長経験者の話が聞けてよかった」「部活についての指導の概念を聞けてよかった」「元教職員の声（学校教育のあり方、生徒の実態、求められていることなど）が聞けた」等々
- ・本研修会の企画・内容を受講者が有意義と受け止めてくれたことが分かった。
- ・グループ別演習については「とても充実していて、様々な経験をされた意見を通して、教育を新しい切り口から考え



分科会④

- ・「することができた」「特別支援教育については、もっと話を伺いたい」「人材バンクに登録しても活動の支援要請がない。早く生徒に接したい」等、登録者の生の声を聞け、第二回の研修会の企画検討材料をも得ることができた。
- ・今後加えてほしい研修会内容には、「特別支援教育の基礎知識や特別に支援を必要とする児童生徒への基本的な対応の仕方」「ボランティア体験談」「保護者・地域の実態及びその対応」等の声が多かった。今後の企画に活かせるよう努めたいと思っている。

（文責 桑原利夫）

準備が始まった

第47回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会

東京大会について

第47回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会東京大会（以下、関プロ東京大会）が、平成30年10月18日（木）～19日（金）にかけて、御茶ノ水駅近くの東京ガーデンパレスを会場に開催されます。この大会は、1都9県の会長以下役員が開催県に集まり、各都県の退職校長会が抱える課題や活動状況についての情報交換や意見交換をする機会となっています。このことは、すでに会報第195号の巻頭言でも報告済みです。さて、この行事は10年に一度の開催のため、開催直前まで関心が薄く、本会も慌てて2年前から開催日や会場の確保、それに開催県視察などの準備に入りました。去る平成28年12月21日に準備委員会を設立。7回の会議を経て平成29年5月

30日をもって実施に向けた企画立案の審議を終えました。準備委員会の委員諸氏には、急な役割を快諾していただき、心から感謝申し上げます。この準備委員会の経緯を踏まえ、8月9日の正副会長会で会長より「関プロ東京大会企画書」が示され、東京大会を成功させるための広範な陣容で固める「実行委員会組織」及び「スケジュール表」等が了承されました。主たる組織体制は、実行委員長を先頭に6人の部門長で構成される「運営推進本部」が牽引役となります。

以下は、関プロ東京大会の実行部門の責任者です。

○大会実行委員長 多田 丈夫

（会長）

○相談役

黒田 貞夫

（参与）

○推進本部長

三辻 陽夫

（事務局長）

○運営部長（座長）

桑原 利夫

（副会長…企画調整部）

○研修部長

宇津木 順一

（副会長…総務部）

○会場設営部長

藤崎 武利

（副会長…生涯学習部）

○資料記録部長

梅津 通郎

（副会長代行…会報部）

○推進本部副部長

守屋 龍男

（部長代表…総合調整担当）

運営推進本部は、去る9月6日に準備委員会で企画担当委員長の任を務めた黒田貞夫氏から「大会への準備と今後のスケジュールについて」のレクチャーを受け、実施への共通理解と心構えを新たにしたところです。今後の運営推進本部は、

①大会実施要項 ②推進会議運営 ③テーマ設定 ④新潟大会視察 ⑤第一次案作成 ⑥予算

編成 ⑦大会要項の準備 ⑧

大会案内の発送 ⑨参加者の

把握 ⑩大会運営計画 ⑪会

場設営 ⑫来賓、接待者の把握

等の手順で三辻陽夫推進本部

長を中心に具体的な準備に入

ります。準備期間は、正味一年

です。関プロ東京大会が支部長

会をはじめ、すべての役員と会

員の皆様の応援をいただきな

がら、豊かなおもてなしと本会

の綱領が詠う国際都市東京の

実践例を紹介する魅力的な「東

京大会」になることを切望して

いるところです。尚、今年10月

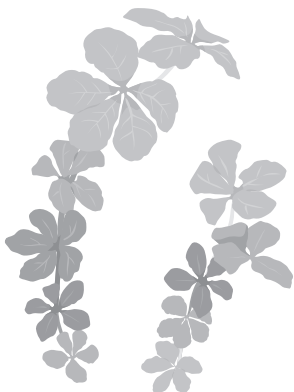
に開催される新潟大会に視察

団として桑原利夫運営部長と

守屋龍男推進本部副部長が参

加する予定です。

（文責 多田丈夫）



平成 29 年度『第2回 会員研修会』のご案内

東京都退職校長会 生涯学習部

平成 29 年度第 2 回『会員研修会』を下記の要項で実施いたします。

多数のご参加をお待ちしております。

- ◎ 期 日 平成 29 年 11 月 22 日 (水)
- ◎ 時 間 受 付 午後 1 時 00 分～1 時 30 分
研修会 午後 1 時 30 分～4 時 00 分
- ◎ 会 場 鈴木日退連協同ビル 3F (東京都退職校長会のビル)
文京区湯島 4-12-3 千代田線「湯島」下車 徒歩 6 分

生き生き 人生を目指して —健康で豊かな人生を歩もう！—

- ◎ 発表支部
大田支部 いきいき楽しくクラブ活動
発表者 天野 正忠
- 練馬支部 写真クラブの活動を通して
発表者 柴 和一 富岡 義光
- 杉並支部 平成 22 年度より導入した研修事業 (体操・コーラス
・オリンピックに向けた英語)
発表者 井口 茂 川端 啓三



第二回会員研修会は昨年度に引き続き、支部による教育支援活動を発表していただく研修会にしました。

三支部とも昨年度から発表を希望し、意欲満々で素晴らしい活動をされています。

今年度のテーマである健康に関することも発表に盛り込んでいただいています。

充実した研修会になると思います。

多数の方々のご参加をお待ちしています。

高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計9名（敬称略）
（平成29年9月18日までに支部より届出のあった方々）

瑞宝小綬章 1名

氷田 正男（杉 並）

瑞宝双光章 8名

有馬 正英（世田谷）

太田 良夫（世田谷）

松原 新一（世田谷）

渡邊 貞之（世田谷）

井上 松吉（調 布）

青木 幸子（北多摩西）

山口 和治（埼 玉）

池田 瀨彌（埼 玉）

論考

いじめ

台東支部 老川 秀夫

公園を歩くと保育園の幼児が元気に力一杯生きる姿が目に入る。元氣だね。人生八十年だ。何があっても死なないでね。八十二歳になる私の願いだ。無邪気に生きているこの子たちになんていじめっ子が現われてくるんだ。いじめられる子に悪いところがある訳がないと思う。それでは何のためにいじめるのか。

私が公園で見たエネルギーを持った幼児の元氣さ、同じように中学生も高校生も人生八十年を生きるエネルギーは美しく、その子のエネルギーの向くままに思い切り生きて貰いたい。

私は教師を信頼できない生徒を中学校で三年間受け持った。生徒は教師に非常に反抗的だった。三年生になってから私は毎日自宅へ連れ帰った。生徒は作文に「先生は他の先生とは違う」と書いた。私に対し素直になり心配していた対教師暴力は起きなくなった。人を自殺に追い込むようなすごいじめをやる生徒に対しては学年体制の強い指導の他、私のようにいじめっ子のリーダーを特別に面倒を見ることも一つの解決方法かも知れません。

新登場

No.1

アフラックは
がん保険・医療保険
契約件数 No.1

平成28年度「インシュアランス生命保険統計」

●契約年齢●
0歳～
満85歳
まで

がんを含む
病気や
ケガの
備えに

ちゃんと応える
医療保険
EVER

心配な
「がん」の
備えに

新 生きるための
がん保険 Days

■募集代理店（アフラックは代理店制度を採用しております）

◎商品およびサービスの詳細は「契約概要」等をご覧ください。

三泉トラスト保険サービス株式会社

0120-357-212

FAX 03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

〈引受保険会社〉

「生きる」を創る。

Aflac

アフラック

東京第一法人営業部

〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル19階

Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565

AF広宣課-2017-0005-1705004 1月16日

支部だより

墨田支部の三大事業

墨田支部長 小菅 和子

墨田支部は区内在住のA会員と区で退職されたB会員で構成されております。平成二十四年に創立五十周年を迎えました。発足時は九十五名の会員を有しておりました。今年度は七十七名で最盛期に比べると半分にも足りません。退職公務員連盟と会員が重なるようになり、事業を合同で行い、今日に至っております。

会員は減少しましたが、三大事業である会誌発行・退公連との合同展覧会・一日研修会は以前同様に行われております。一番の大事業は何と言っても会誌の発行です。今年は四十三号になり、二度の編集会議を経て九月に発送致しました。創刊当時の手作りが業者への発注になり表紙は白黒の写真となりました。



会誌と一日研修会の表紙

創立五十周年の特別号でカラー写真の表紙に致しました。その後はすばらしいカラーの墨田の風景で会員の目を楽しませております。三分の二以上の会員の投稿があり、それぞれの方の動向を知る場の一つでもあります。毎号教育長の「ごあいさつ」をいただいております。

十一月の退公連と合同の展覧会は二十一回を迎えます。最初

は数名の会員の水墨画の発表から始まり、今は出品も多岐にわたり、区の「お知らせ」にも記載されております。近年課題も出ています。出品者の固定化や脚立を使用する会場設営は危険もあり、今年はボランティアの方の力をお借りすることになりましたが、次回が心配です。存続の声が寄せられておりますが、何らかの形で行えないか模索しております。

三月には一日研修会があり、最近では区内や近隣の名所、史跡を三時間位の予定で巡ります。

実踏、カラー写真入りの冊子、反省会の場所設定と担当の方が計画し、有意義な一時となります。今年は震災記念館、江戸東京博物館、昨年設立された北斎美術館等ボランティアガイドの説明もあり、認識新たな時間を持ちました。その後は、イタリヤ料理の反省会。

どの事業も担当の方の見えない所でのご苦勞に感謝です。

荒川支部活動
在住・在勤ひとつになって

荒川支部長 戸叶 恒夫

毎年六月には、荒川区長・教育長・区議会議長・東京都退職校長会長・区幼小・中学校(園)長・都民互助会代表を来賓に迎え、総会を実施しています。今年度は会員数九十五名(在住二十名・在勤七十五名)でスタートしました。常に百名以上だった会員も年々減少し、運営でも厳しさが増大しています。年十回の役員会を八回にするなど、



趣味展出品者

支出を最小限に抑えています。

主な活動は①総会②趣味展

③一日見学会です。

○趣味展

全会員に呼びかけて秋に（今年度は十月二十五日～二十九日）作品展を実施しています。

（絵画・書・工芸・写真・ちぎり絵個人研究など）会員が一年間に製作した作品を展示します。特に、荒川区で勤務した先生方は当時の生徒・保護者・同僚などとの再会が楽しみの一つとなっていて、多くの方が訪れます。

○一日見学会

年一回、研修と懇親を兼ねて一日見学会（今年度は十月十六日荒川区立図書館ゆいの森）を実施しています。施設の見学や



趣味展



寛永寺金堂前

講師の話聞き見聞を広めます。

○その他

昨年度より荒川区教育委員会の依頼を受け、教員の資質向上のサポートをすることになりました。退職校長会の活動とは直接関係はありませんが、地域との連携という点では荒川シルバー大学の運営や講師として多くの先生方が活動しています。

本区在住の会員は二十名です。しかし、荒川区に勤務し退職後も荒川の教育を理解し退職校長会に入会している多くの会員とが一体となって荒川支部活動が継続しています。これからも会員力を合わせて、この流れを大切にしたいと思っています。

足立支部の活動

足立支部長 伊藤 誠一

足立支部の活動は、総会から始まって、会員交流の集い、忘年会と、それらを会員の皆様にお伝えする会報の発行が主たる活動です。会員交流の集いと支部会報、この二つは自慢できる支部の宝です。

会員交流の集いは、具体的には歴史散歩です。東京歴史散歩の会を主宰している萱原昇二前支部長（元都立白鷗高等学校長）の案内で歴史散歩を行っています。秋の土曜日の午後の半日を使って歩きます。今までに歩いたところを紹介します。「明石町・佃・月島」ここでは築地本願寺から歩き始め、中央区明石小学校校際にある明治のガス灯など珍しいものも見て歩きました。「下町の中心日本橋」では北町奉行所跡や三浦按針屋敷跡などを。「旧江戸城を訪ねて」では江戸城大手門を入った所の



常盤橋

石垣が明暦の大火によって真っ黒になっている様子などを見ました。「上野を歩く」ではこの地を「自然公園に」と進言したオランダ人医師のボードワンの像など、普段は通り過ぎてしまふところを。「千住宿を歩く」ではこの石畳は野菜を並べたところなどを。「東京駅とスカイバス」は新装となった東京駅の特徴をつぶさに見学。スカイバスの爽快さは格別でした。「ひぐらしの里から谷中へ」では、たくさんのお寺や小村寿太郎像のある朝倉彫塑館を見て、谷中

銀座の賑わいも味わいました。そして今年は大名庭園の六義園と小石川後楽園の予定です。

歴史散歩の面白さは一度味わうと興味が尽きませんが会員の皆様も高齢化し、参加者が増えないことが課題です。

支部会報は、総会の案内と忘年会の案内の返信面に近況をお書き頂いていますが、その全文を会報で紹介しています。全員交流の貴重な紙面となっています。発行が遅れると「会報はまさだか」と催促されます。会報にはいろいろ載せますが、会員の皆様が待っているのはこの「一言集」なのです。足立支部の会員は現在A会員六十一名、B会員六十二名と、少なくなりました。私が入会した平成十六年の名簿を見ても二百五十名を超えています。ここ十数年の会員減は足立支部にとって大きな課題です。新規加入者を増やす努力をしなければならぬのですが難しいです。

八王子支部の活動

八王子支部長 榛葉 邦男

現在、正会員百六十五名、準会員三十五名、合わせて二百名の会員数で構成されている八王子支部の活動を紹介します。

一 八王子支部だより

会員の意見、近況、情報交換の場所として年一回発行しています。編集委員長はじめ七名の編集委員が原稿依頼、校正、発送まで十回の編集委員会を積み重ね完成します。先輩諸兄姉が育み育ててきた会員のための情報誌で、今年度は第三十九号になります。旅行記、趣味、過去の出来事、リハビリ、ボランティア活動など、内容は多岐にわたっています。自宅に居ながらにして、苦楽を共にした先輩諸氏・同僚・後輩の現況を知り、元気をもらっています。また、総会資料の「会員のひと言」でも会員の近況を知ることがができます。

二 学校支援活動

平成二十年度に市内公立小中学校の教育充実のために少しでもお手伝いできればといち早く立ち上げました。支援の内容は学校経営、教科・総合的な学習、特別支援教育、教師・PTA、部活動その他です。この学校支援活動は本部の人材バンクを立ち上げる時の参考になったと言われています。

三 クラブ活動

本支部には六つのクラブがあります。「ゴルフクラブ」は三十六名の部員を誇るクラブです。年六回のコンペと一回のオープンコンペを開いています。オープンコンペは校長経験者であれば誰でも参加できるコンペで今年度は第五回目になります。会員の加入に寄与しています。

「マジッククラブ」は月二回の定例の活動のほか、老人施設、学校、自治会等にボランティア出演をして喜ばれています。

「水墨画クラブ」は毎月二回市民センターで活動が続けてい

ます。毎年開かれる総会資料の表紙を飾っています。過去には全国レベルの作品展で入賞者を出しています。

「パソコンクラブ」は市の教育センターで毎月一回活動しています。講師は会員。毎回時季に合ったテーマで技能の向上に努めています。

「ウォーキングクラブ」は年三回行われています。初めの頃は市内の名所旧跡などが中心でしたが、近頃は都内まで足を延ばして活動するようになりました。毎回充実した資料が提供され、内容も濃くなっています。

「囲碁クラブ」は発足して一番新しいクラブです。自由対局の日と大会の日があります。囲碁は認知症予防に良いとも言われていて参加者も増えつつあります。

「いつまでも元気で楽しく生き生きと生活できる。」この願いを込めた活動が続けていきます。

新入会員の声

人との出会い、興味・関心を原動力にして

杉並支部 三井 知之

初任は港区立青南小学校でした。先輩に恵まれ、七年間理科を始めとして、体育、視聴覚、安全、国際理解教育等の研究をさせていただきました。徐々に研究の中心を理科と国際理解教育に絞っていき、二校目の目黒区立烏森小学校では理科の研究員をさせていただきました。校内研究でも理科ということで、研究発表会もさせていただきました。その時の講師の萩須正義先生の「私たちの生活、全てが問題解決なのだ。」という言葉が今も私の中に流れています。三校目はバンクク日本人学校で理科、生活科の現地素材の教材化に取り組みました。港区立赤坂小学校に戻ってから、今は無くなってしまった目黒の都立教育研究所で地学の研究生をさせていただき、ワールドワーク

と地下二階で研究を深める一年間を過ごしました。そして、教頭として青ヶ島小学校に単身赴任し、港区立三光小学校に戻り、その後、課務担当副参事として二年間、教育庁人事部職員課服務班で服務事故の防止に向けて、全校での「服務事故防止研修」の立ち上げの経験をとらせていただきました。その後、ニューヨーク日本人学校の校長として、赤字経営の立て直しに当たりました。帰国して港区立本村小学校・幼稚園、最後に居住地の杉並区で勤務することができて、本当に光栄でした。様々な場所で、多くの方々に出会い、様々な経験をさせていただき、子供たちと教職員と共に問題解決を繰り返しながら、あつという間の三十八年間を過ごしました。浜田山小学校で退職し、現在は再任用校長として桃井第五小学校に勤務し、楽しい日々を過ごしております。

「生徒指導」と「教育力ウンセリング」を生涯の力として

小金井支部 藤川 章

二十八歳の時に民間企業から教員となり赴任した学校は、八王子市の総番長校。昭和五十九年、全国的に校内暴力の嵐が吹き荒れた時代でした。当時の苦闘の日々は語り尽くせない思い出です。

着任した中学校にはラグビー部があり、経験者だった私は早速顧問になりました。その年の九月に『スクールウォーズ』という実話を基にしたドラマが始まったお陰で、学校中の暴れん坊が入部してきました。そして彼らが市内二十校余りの番長連合のトップだったのです。新米教師の私が、気が付いたら校内ばかりか市内の生活指導の最前線にたっていました。以来、生徒指導は教師としての私を支える一つの大きな柱になりました。その後、生涯の師と仰ぐこと

になった國分康孝先生と出会いました。先生から教育カウンセリングを学び、研究し、実践を重ねることができたのは、学級担任としても管理職としても、大きな力となりました。生徒指導と並んで私を支える柱でした。「QU」による学級アセスメントをもとに、グループエンカウンターを学級経営に活用し、生徒同士の人間関係を養うこと。いじめや不登校問題への具体的な対策として、これらの教育手法のお陰で、退職する直前まで生徒たちと直接接することができました。

予防的・開発的な生徒指導と教育相談を理論・実践として融合することが私の使命と考えてきました。

今後も、一教育者として命ある限り教育カウンセリングの普及に努めていくことが、多くの先輩方に育てていただいた恩返しであると考えています。

学び続ける姿勢を忘れず

江東支部 仲田 恵

世田谷区で新規採用していた
だき、目黒区、大田区そして江
東区と四区で六園に勤務し、平
成二十九年三月に定年退職を迎
えました。

私は各区で研究発表という貴
重な経験をしてきました。たく
さんの先輩・後輩の先生方、そ
して園内研究会においてくだ
さった講師の先生方と出会い、
多くのことを学ぶことができました。

世田谷区では、教育現場に出
たばかりで何が何だか分からず、
先輩の方々の教えに従い取り組
んだ日々でした。「もつと子ど
もの中に入って保育をした方が
いい」と保育の基本を教えてい
ただきました。

目黒区では、ようやく園内研
究会とは何のために、そしてど
のように進め、学んだらいいか
が分かり、研究の面白さを感じ

始めました。小学校と併設の幼
稚園でもあったので、校内研究
会でも学ばせていただきました。

そして、大田区では幼稚園に
おけるボランティア教育という
新たなテーマで頭を悩ませまし
た。しかし、園の前の歩道の掃
除や花々への水やり等、子ども
たちと一緒に学びました。

江東区では管理職という立場
で研究発表に取り組みました。
若い先生方も自分の考えを言え
る雰囲気作りや保育の面白さを
理解できる助言をいただける講
師の先生方の招へい等に努めま
した。

四月から再任用園長として勤
めています。平成三十年代から
は新幼稚園教育要領が施行され
ます。これまで学んできたこと
を士台にして、新たな考えを学
ぶ姿勢を忘れずに、今後も進ん
でいきたいと思っています。
どうぞよろしく願ひいたし
ます。

退職を迎えて

千葉北支部 赤石 定治

高校時代に出会った先生に憧
れ、夢が叶ってから、あつとい
う間に今を迎えた感じです。ま
だまだこれからという気持ちと、
力を出し切った充実感が、複雑
に絡み合い、不思議な浮遊感を
覚えています。これが退職なの
かと、一人、過ぎ去った月日の
流れに、身を任せています。

今を迎えられたのも、そして、
その時その場所で、全力で駆け
抜けることができたのも、出
会った生徒に恵まれたことはも
ちろんのこと、先輩や同僚の先
生方のご指導やご支援があつて
のことと、この巡り会った幸せ
に、ありがたいと、感謝、感謝
の毎日です。

さて、私は、理科教員として、
都立荒川商業高校を初任に、東
高校、開設準備室勤務から晴海
総合高校に勤め、教頭・副校長
として、上野高校定時制、赤羽

商業高校、墨田川高校に勤務し
ました。そして、平成二十年に、
都立葛飾野高校へ校長として赴
任し、途中、中部学校経営支援
センター学校経営支援担当課長
として高校を支援し、最後に、
都立科学技術高等学校長として
退職を迎えました。

理科教員時代は、初任校の準
備室にあった前任者の研究物に
導かれ、理科教育の研究活動に
没頭していました。都理研や理
化の活動からも、多くの刺激を
受け、研究を深めながら、授業
で勝負と研究を続けていました。

管理職時代は、尊敬する先輩
の姿を追いかけて、笑顔を絶やさ
ず、毎回、「忘己利他」の精神
を大切に、事業の進むべき方向
を考えていました。得がたい経
験を積むことが出来ました。

現在は、国立研究開発法人科
学技術振興機構の主任調査員と
して、SSH指定校の支援業務
を行い、理数教育の推進に全力
で取り組んでいます。

前号の会報誌を読んで

都退職校長会の

会員平均寿命は

小嶋 通男

都退職校長会の会報197号には生涯学習部企画による会員研修があり、演題「めざそう健康寿命」・講演者渡辺仁先生による講演内容が記載されており、大変参考になりました。

平成27年度の調査によると、日本人の平均寿命は、男性八十・七五歳、女性は八六・九九歳でした。誰しも寿命には関心があります。

そこで、本会の平均寿命はいかがなものかと思いました。

会報の巻末に物故者名簿があり、これを拝見するとお世話になった方々が数人おられました。ご冥福をお祈り申し上げます。僭越ながら、調査作業をさせていただきますところ、平均

寿命は八八・一五歳となりました。これは、日本人女性と同等の高年齢で、男性平均よりも七歳上まわり、ますますの長寿向上が期待されます。

また、全国で百歳以上が六万人といわれておりますが、この会の白寿以上は二十三名（会員数三千七十名）で、この長寿にあやかりたいものです。

健康第一です。食事・運動・趣味・睡眠と、それに人間関係を豊かにするために、外に出掛けることも大切で、良い生活習慣に努め、平均寿命を上げたいものです。

故・日野原重明先生のお言葉「人生には運命がある。いのちは時間だ」が印象的です。



余談明け暮れ

神奈川県支部 河村 保男

退職してから早くも20数年経った。充実した価値ある生活が送れた。その中で自分史に残したいことは多々あるがセンセイでなく河村さんと呼んでくれる友人が沢山できたことだ。登山学校に入校し高山に挑戦した岳友達や音楽界オケの裏方をやったお陰で演奏家達、マスコミ塾での塾友達、街の卓球クラブの部員達なのである。あな嬉しや！

ところで、15年前頃会報部の一員だった。今は大判で見易くなり、記事の内容も充実しており現担当者の意気込みが感じられる。部員の発行までの仕事は本当に過酷だ。努力しても誤字脱字あり、人名の字にどれ程神経を使うかゲラを見て再度念を入れる。依頼したのにメ切過ぎても届かない原稿。編集長(80)から依頼責任者である若造の私

(65)に穴埋めせよとのお達し、手持ちの自分の拙い原稿を恐る恐る出したら、「いいぞ！」と褒められたのは怪我の功名というのか。

年を取ると余談ばかり。また話が変わる。遂に83、終活開始だ。まず本の整理を始めたが家人にはゴミ、私には宝物。処分出来ずにいたら、部活でいただいた教え子が全部引き取り「河村文庫」を開架。多摩川沿いでペランダから花火が見られ、ホームバーも設置し、友人との憩の場だ。我が蔵書の嫁ぎ先最適最高有難やあな嬉しやである。



湯島の動静

8月

1 福利厚生部会

7 業改・作業部会

9 企画委員会④

10 生涯学習部会

21 総務部会

23 正副会長会④

26 会報部会

28 五団体教育懇談会

29 企画調整委員会

31 人材バンク委員会

業改・作業部会

人材バンク委員会

9月

4 福利厚生部会

5 正副会長会⑤

8 総務部会

11 《短歌クラブ》

18 企画委員会⑤

顧問・参与会

12 人材バンク委員会

13 生涯学習部会

20 会報部会

22 人材バンク委員会

23 人材バンク登録者研修会
(水道橋・研修センター)

25 会計部会

27 正副会長会⑥

会報部会

10月

2 企画委員会⑥

3 福利厚生部会

4 会報部会

10 生涯学習部会

11 会報部会

12 関ブロ・新潟大会

13 〃

16 会計部会

17 正副会長会⑦

18 総務部会

23 支部長会②

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談

どんなに些細と思われることでも
お気軽に

ご葬儀

寝台自動車、火葬場
式場、供花・枕花の
お手配

ご法事、
葬儀後の
お手続き

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎ 0120-849544 をご利用ください。



経済産業大臣許可(五)第3066号
株式会社

東京都民互助会

東京都民互助会

検索

<http://www.tomin-gojo.co.jp>

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874

(平成29年9月20日届出現在)

物故者										氏名				氏名			
謹んでご逝去を悼み ご冥福をお祈り申し上げます										年月日	支部名	校種	年齢	年月日	支部名	校種	年齢
秋山 保男	29・6・26	八王子	中	95	57	戸井田吉政	29・6・24	足立	中	77	49	石川 隆一	29・6・24	神奈川	中	83	133
奥井 利一	29・6・21	新宿	高	87	2	岩田 三治	29・6・19	西多摩	小	76	98	遠藤 善巳	29・6・16	埼玉	小	92	126
竹中 文男	29・6・13	品川	小	62	27 16	廣江 信夫	29・6・9	世田谷	小	93	17	高井喜代美	29・6・7	八王子	中	83	59
三浦 照枝	29・1・9	大田	小	100	13	三浦 照枝	29・1・9	大田	小	100	13	原田 洋安	29・1・8	北多摩西	小	74	95
川野 克己	29・7・10	北多摩北	中	87	78	岡田隆一郎	29・7・12	葛飾	小	86	52	坂本 守	29・7・16	埼玉	小	95	126
亀崎 昇	29・8・3	千葉北	小	89	121	岸上 修	29・8・1	杉並	小	91	30	鈴木 順一	29・8・8	世田谷	小	87	17
齋藤 邦男	29・8・9	足立	特	87	48	田中 佑幸	29・8・25	町田	小	79	67	齋藤 邦男	29・8・9	足立	特	87	48



短歌

髪のを赤き輪ゴムで束ねいて
チヨンチヨコリンの幼は得意
声あげて笑う幼の生え始めし
真白き二本の下歯がのぞく
両の手にリング握りて齧りいる
二本の條の浅く残して

中野支部 田中弘志

わが寮にストームをかけし君なりき
悔いが残れり応えざりしを
青春は甲子湯の秘境友とあり
山葡萄の樹下夢を語りし
核の火に灼かれし背なは赤々と
きみは吾と同齡只中の青春
長崎の被爆者、谷口稜睡さん死去八八歳、核兵器
をなくす運動に尽くす。

府中支部 和知光儀

作品募集

短歌・俳句・川柳（ひとり二首
まで）・コント（百字程度）等を
葉書でお寄せください。（難読漢
字は要ルビ）

「書画・写真・挿し絵」等の作
品も募集いたします。作品の写真
またはデータをお送りください。
原則、返却しません。

掲載時の大きさ等は割付状況に
より異なることをご了承ください。

送り先 〒113-0034

東京都文京区湯島4-12-3

日公連ビル5F

東京都退職校長会 会報部

編集後記

総選挙の結果が明らかになりました。我が国の目指す方向が
決まってくるのですから、今後
も注視したいものです。

本号は一頁の主な記事に記し
た構成です。巻頭言で退職校長
会の進む方向。五団体との教育
懇談会では、各団体の方向性と
課題。この二つを合わせて読む
と私達の生き甲斐、居場所等が
浮かんでくるのではないでしょ
うか。それを受けて具体的な事
例を続けました。人材バンクの
研修会から支部だよりまで。

そして、新入会員の声では新
鮮な思いを聞く機会としました。
世は正に高齢社会。退職校長
会そのものです。「静かにゆく
ものは健やかにゆく。健やかに
ゆくものは遠くへゆく」との言
葉があります。「静か」「健やか」
「遠く」捉え方は様々でしょう
が、考えていきたいものです。

(榎本 勉)